



老舗の佇まい

時代とともに街並みが変わっても、変わらず商売を続けている人がいます。そのお店で働いている人にお話を聞きくと、老舗の秘密がみえてくるような気がします。ちょっと覗いてみましょう。

専門店の知識とつながり。
それがこの街の強さ。

富士文房具店

昭和25年創業の富士文房具店は、アットホームでどこか懐かしい店構えが、暖かくお客様を迎え入れるてくれます。結

納に関するものも扱うため、引き出物に出すお菓子の相談までされるそうです。そんな声にもすつと応えられるのは、専門店ならではの知識とお店同士のつながり

だと店主はおっしゃいます。

多様な紙の種類や文具・書道の道具類も、店舗内には収めきれないほどの在庫があるそうです。「富士さんに行けば、きつとあるはず。」そんな声に応える姿がそこにはあります。

専門店ならではの知識とお店同士のつながり

作るだけでは、メガネは機能しない。
体の一部だと思っています。メガネの玉屋



量販店が低価格競争でひしめき合う中、メガネの玉屋は価格以上に目には見えない、安心して使えるものを提供するという姿勢を創業以来続けています。「ある程度の機械や技術があ

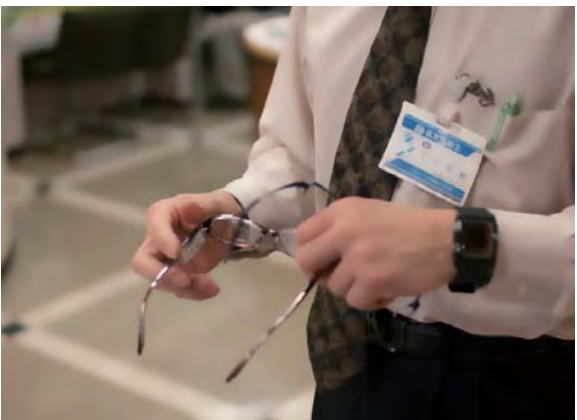
れば、メガネの機能の割程度は誰でも作れるんですよ。大事なのは残りの心割。実際には、かける方の骨格や目の位置、日常生活も大きく影響します。それだけではなく、メガネの素材自体も月日と共に変化するので、その素材の癖も加味した上で眼鏡を作らなければ行けないんです。だから、一度作ってしまったら、一度作ってしまえば終わりではないんです。」

弱った目を補ってくれる第三の目といってもいいのがメガネ。それがお

お客様に機能しないものを作るわけにはいかない。さらに十三日町にある本店は、他の店舗と違い、より特別な期待を持っていらっしゃるお客様が多いとか。

その期待と信頼に、熟練した技術でお応えするという姿勢が会話の中から伝わってきます。

青森県内でも、唯一メガネの玉屋でしか扱っていないものも。スウェーデン王室認定商品のポラリスもその一つ。アイメトリックスは取扱いはじめで十数年になる。



続けていること。それが今に繋がっています。

株式会社 花亀



花亀は江戸時代から続くお店です。創業は、享保の年（江戸時代）とのことで、当時お殿様に仕えたお医者さんであった花巻屋亀太郎さんが、現在の岩手県花巻から

八戸に移り住み、商売を始めたのがはじまりだそうです。ちなみに花亀という名前は、花巻屋亀太郎さんの花と亀からとったとのこと。

お話しを伺った「階フロア」には、仏壇から包丁などの金物、「一階」には鍋やざる、桶もあれば、お土産などの民芸品もならび、多種多様なものがお店に並べられています。店主にお話しを伺って



ると、「昔から扱ってきたものは、あらものと呼ばれるもの、簡単に言うところや鍋・桶・日常生活に使う雑多な品物ですね。昔はそういう雑多なものをあらものって言ったんですよ。」淡々とお話しされる口調は、凛々としたもの、どこかやさしさを感じます。良く聞くと、花亀のモットーはお客様第一主義。「お客様が、心より満足して頂けることを第一に考え、お客様と接することを大切にしています。」その言葉を聞くと、

あらものを扱い続けた理由が何となく分かった気がします。時代の変化とともに扱う品物が変わっても、変わらずに商売を続けているその根底にあるものは、人々の生活に寄り添う心。そんな使命を心の中で持ち続けているからこそ、お客様第一主義を実践できているのだと感じます。

中心街になければならない理由があるんです。

スクールショップ ハシブシ

靴屋さんとして明治四年創業以来現在の場所に店を構え、形態を変えながら昨年140周年目を迎えた老舗中の老舗。

11年前に学販営業を同じ市内のスポーツ店から引き継ぎ、現在は市内23校の中学校で指定を受けているそうです。郊外店にも店舗を構えるハシブシですが、中心

街にスクールショップを構えるのには、ちゃんとした理由があるといいます。

「ここにお店を構えるのは、やはり責任があるんです。学校から依頼されて販売しているというのはもちろんですが、それ以上に市内のどの学校にも認知してもらえ、中心街にあるということ、お店同士のつなが



りの中で自分達もお店を続けてこられたという意識。そんな色々な責任を背負っているからこそ、ここになければいけないんです。」

駐車場を含めた利便性だけを考えると、郊外店の方が便利なのかもしれませんが、しかし、商売というものは、人のつながり・地域への関わりの中で、商店としてどうあるべきかという態度をしつかり見せていかなければならない、というお話しを伺い、あらためて

老舗の佇まいをという言葉を思い浮かべました。時代の変化とともに街の景観が変わっても、そこにあり続ける存在感こそが、老舗たる所以なのかもしれません。



お茶を通して伝えたい、昔からの風習。

山口源兵衛商店

山口源兵衛商店の名前を引き継いでから二代目、でも家業としては実に五代目。戦後間もなくから開業している老舗です。

お茶はもちろんのこと、茶器も各流派に合わせて多数用意しています。「茶器と言っても、流派によって使い方や道具が全然違うんです。が、流派によって全く使

いものにならないという

のもしばしばあるんです

が、そうならないようにするのはお茶屋としての使命の二つなんです。」

そればかりではなく、実際に伝えたいのは日本古来の伝統や文化だとおっしゃいます。

「お茶の先生は幾つになられても、背筋がぴんとされているでしょう。それはきつと、鉄瓶で入れたお湯でお茶を飲まれるからじゃないかと思うんです。生活する上で

必要な鉄分をそこから

吸収していたんじゃないかと。そう思って、貧血の方がいらしたときに鉄

瓶でお茶を飲まれてはと勧めたんです。そうしたら、自然と貧血が治まったとか。(笑) 根拠はないですけど、そういうところに文化というものが隠されているのではないかなと思います。」

一見敷居が高いお茶の世界も、実はもつと生活

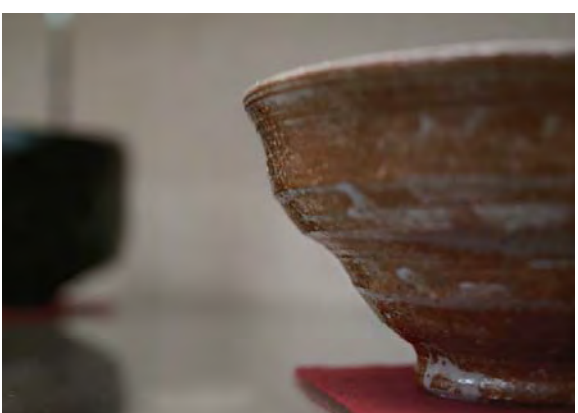
に寄り添った身近なものだ、というのが山口さんの考え方。

「畳敷きの部屋で、背筋がぴんと伸びた感じになることもあれば、逆に気持ちが悪く落ちていくごろつと横になること

お茶の世界の面白さを丁寧に教えて下さった店主。その造詣の深さに引き込まれていきます。

もあるでしょう。お茶の世界も同じで、その両方が文化としてあると思うんです。大切なのは、それをしっかり伝えていく事なのではないかなと思います。」

数百年に渡って傳承されてきたお茶の世界は、実は生活に寄り添ったもの。だからこそ、良い文化を繼承していくこともお茶を販売するのと同じくらい大切な役目である、そんな奥深い歴史・文化を知ることのできる数少ないお店です。





極上のアップルパイ、
もう召し上がりました？

ムラフクケーキ

創業して百年以上になるムラフクケーキ。洋菓子から焼き菓子、和菓子まで取りそろえている。中でもアップルパイは人気商品。

あんずのジャムとサクサクとしたパイの食感が食欲をそそります。常連さんの間では、ジャムがのっていないプレーンのパイが格別との声も。まだ召し上がっていない方、これは外せないかもしれません！